

第5期（平成28－29年度）

境港市みんなでまちづくり推進会議事業報告書

協議テーマ「若い世代の（行政）参加」

第5期は「若い世代の（行政）参加」をテーマに協議した。「行政」がカッコ書きになっているのは、当初、行政参加に限定して協議を行っていたが、平成29年10月の会議より、アドバイザーの提案をもとに、テーマを行政に限らず、広く「参加」全般としたためである。

（1）「若い世代」について

地域やPTAといったコミュニティで実際に主として活動されている、もしくはそれが期待される20代～40代前後の年代を若い世代としている。

（2）協議経過

日時	内容	参加者
平成28年4月11日	ワールドカフェ方式による協議	委員、毎熊アドバイザー、島根大学生14名
平成28年11月10日	フリートーク	委員
平成29年5月9日	フリートーク	委員
平成29年8月8日	フリートーク	委員
平成29年10月31日	ワークショップ方式による協議	委員、毎熊アドバイザー
平成30年3月6日	ワールドカフェ方式による協議	委員、10代～40代の市民13名

（3）協議形式

- ・ワールドカフェ…カフェテーブルでゆったりした気分で話し合うことで、生き生きとした意見交換や新たな発想の誕生が期待できるという考え方に基づいた話し合いの手法。BGMをかけ、お茶・お菓子を飲食しながら、ゲストと委員が班に分かれ、意見を模造紙に記入・もしくは付箋を貼るという形式で協議を行った。
- ・フリートーク …前回協議の感想や今後の方針などを委員間で協議した。

- ・ワークショップ…班に分かれ、意見を模造紙に記入・もしくは付箋を貼るという形式で協議を行った。ワールドカフェと違い、ゲストは呼ばず、BGMなし、飲食もなし。

(4) 協議結果

●平成28年4月11日

毎熊アドバイザー監修のもと、島根大学生14名と共にワールドカフェを実施。以下のような意見が出た（意見は原文のとおり）。

なぜ若い世代は行政参加しないのか ・関心が薄いのか
<p>[行政・政治へのイメージについて]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政は堅いイメージがある。(複雑そう。面倒。情報がコロコロ変わる) ・行政に対する知識がない。選挙にも参加しづらい。 ・行政=就職先、投票=身近にわからない、というイメージがある。 ・意見が反映されない。政治家にいいイメージがない。 ・行政が遠い存在だと感じている。自分の生活とどう関わっているかわからない、身近に接する機会がない。 ・小難しい、法的な言葉が多いイメージがある。 <p>[情報発信について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政が具体的にどのようなことをしているかわからない。 ・情報が大きなメディアから回ってこない。(情報発信不足) ・市報や議会報など紙ベースの発刊物があるが、紙媒体になじみが薄い。SNS等で発信してほしい。 ・決まりごとに対して、まあいいかと妥協する気持ちがある。 ・市報や町内会の案内などを手に取る機会がない。 ・行政関連の情報は探さないと見つけられない。 <p>[学校教育について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高と決め事に参加する機会を与えてもらえていないから。 ・小・中・高の授業(現代社会など)と実際の社会や行政とのつながりや関連性が見えない。 <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域性が強く、地域外からの意見が受け入れられにくい。 ・夫婦共働きが増加しているから。 ・そもそも子どもや若い世代が少ない。関心が薄い。 ・まちづくりや地域づくりについて、若者がやる必要がわからない、年上(40代

以上) がやるべき。「ふるさと」と思えるほどの思い入れがない。

- ・時間がない。(学生はアルバイトや遊び、20～30代は仕事と子育てに時間をとられる。)

どうしたら若い世代が参加するのか

〔参加する機会の創出について〕

- ・若い世代の意見を聞く場を設ける。
- ・いろいろな世代の人が集まり、行政や政治などいろいろな話をする場を用意する。
- ・祭りなど楽しいイベントがともにあり、参加することに楽しみを感じてもらえるようにしていく。
- ・参加しやすい環境づくりに努める。
- ・若者と市長や議員が触れ合う・語り合う機会を創る(難しいテーマでなく、平易なテーマなどで)

〔学校教育での取組について〕

- ・学校でワールドカフェのような方式で気楽に行政参加する場を設ける。
- ・小・中学校の授業で行政や選挙のことを教える。
- ・学校教育に新聞を読む時間や行政について学ぶ時間を設け、親しみを持ちやすい環境を作っていく。

〔その他〕

- ・住民の意見をもっとまともに取り扱ってほしい。
- ・行政への意見をもっとフィードバックしてほしい。
- ・若者が「自分が動く」という当事者意識を持つ。
- ・開放的な風土づくりが必要。
- ・分かりやすい議会にしていく。
- ・参加することが義務ならばする。(罰則を設けるなど)

ゲストが学生であったため、若い目線の意見が多く出た。「小・中・高と決め事に参加する機会を与えてもらえていない」という意見が示すように、学校教育での取組が重要と感じる会となった。

●平成29年10月31日

毎熊アドバイザー監修のもと、委員間でワークショップを実施。以下のような意見が出た（意見は原文のとおり）。

「若者が政治に参加しない原因」	「参加を促す解決策」
政治に関心がない／分からない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校で指導する ・ 学校で政治クラブを作る ・ 若者が楽しみに思えるような企画を作る ・ 行政がもっと近づく ・ 若者に人気な芸能人による政策討論番組を放送する ・ 学部誘致 ・ 若者限定の市長と語る会を開く ・ 小中から継続して参加できる機会を作り、重要性を理解してもらう ・ 立会人を広く募集する（謝礼をエサにする）
一人ではどうにもならない	
自分に関わらなくても問題がない	
面倒くさい	
大人が興味を持っていない	
家族で政治の話をしない	
周囲のことを考える気になれない／自分のことで精いっぱい／バイトが忙しい	
テレビ・ネット等で興味のあるニュースしか見ず、政治に関するニュースを見ない	
なじみがない	
地域の行事など全て親がしてしまい、子どもの出番がない	
不在者投票制度の周知不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不在者投票制度についての広報を充実させる ・ 移動投票所の開設／若者の集まる場所で投票所を開設
県外大学へ進学し、住所を移していない大学生は投票できない	
仕事の多様化で土日祝に休みがない	
政治家のイメージが悪い／政治不信／政治家に関わりたくない	政治家との交流の機会を設ける／飲み会を開催する

学生との協議・委員間での協議を経て、地域の活動を担う「働き盛り」の年代からの意見も聞きたいという反応もあり、次回のワールドカフェへと進展していった。

●平成30年3月6日

委員がそれぞれ20代～40代の市民の方を連れてきて、ワールドカフェを実施した。前回との違いを出すため、「みなさん（私たち）が参加する理由」も追加し、「参加を促す改善策」へのヒントとしたところ、以下のような意見が出た（意見は原文のとおり）。

「みなさん（私たち）が参加する理由」

- ・親に言われたから／声をかけてもらうから／嫌とは言えない人に誘われたから
- ・知り合い・友達を増やしたい／知らない人に会ってみたい／面白い人に出会える
- ・人と人との繋がりを大切にしたい
- ・仕事をやめて時間がある
- ・地域の役に立ちたい／境港や地域への愛
- ・ボランティアが好き
- ・人の笑顔が見たい
- ・自分のためになる／自分の成長に繋がる
- ・世間体を気にして（やっていないとは言いづらい…）
- ・自分の考えや経験を伝えられる
- ・人の意見を聞いてみたい
- ・政治・投票は自分の考えを反映してくれそうな人がいたら応援・投票する
- ・自分の活動で何かが変わるとやりがいを感じる
- ・自分の熱意と一致するならボランティアでも参加する
- ・PTA行事が子どものためになるなら参加する
- ・地方（田舎）だからこそやる（一人一人の力が重要）
- ・頑張っている人に協力したい

「若い世代が参加しない理由」

- ・面倒くさい
- ・やりたくてもどう参加したら良いか分からない
- ・時間的な余裕がない／自分の趣味・仕事・子育てに忙しい／
- ・人見知り／恥ずかしい／地元だと恥ずかしい／参加しても溶け込めない
- ・繋がりやツテがない
- ・情報がない／行事自体の存在を知らない
- ・自分が求められていると思わない
- ・自分に出来る自信のないことには参加しないようにしている／役不足
- ・時間を割いても、面白みやうま味がない
- ・世代に格差があってなかなか入り込めない
- ・若い世代の意見をよく聞かない
- ・誘い方が下手／直接誘われていない
- ・習慣がない
- ・個が中心で他人に関心がない／個人では参加しづらい
- ・参加によるメリットを考えてしまうため（特に即効性のあるメリット）／メリットが示されていない
- ・自分がいてもいなくても影響がない

- ・ 20代～40代だけの集まりがない
- ・ 行事が慣例で嫌々参加しているような人の集まりになっている
- ・ 行政に自分の考えが反映されたことがない
- ・ よそから引っ越してきて受け入れられていないと感じて参加していない
- ・ 高齢者と若者の考えにギャップができています

「参加を促す改善策とは？」

- ・ インパクトのある広報／大きなPR（市報で一面使う・テレビCM）／回覧板以外の方法／SNSの活用
- ・ 行事の企画から若者にさせる
- ・ 子どもたちが参加できる活動を増やす（親も来る）／親と子どもの農業体験や料理体験
- ・ お得感を与える／献血のような参加賞／食事会／日当あり
- ・ 「あなたが必要なんだ！」と伝える
- ・ 責任のある役を持たせてあげる
- ・ 若い世代の意見を優先して聞くようにする／何がしたいかアンケートをとる／自治会に入らない理由を話す（全てなくしたらどうなる？）
- ・ 子どもの頃からの教育／子どもの頃から行事に参加させる／個人主義ではなく、みんなで協力することの大切さを教える
- ・ 掴んだら離さない！
- ・ 横の繋がりを強くする
- ・ 年代を限定した選挙・行事・イベント
- ・ 参加のハードルを下げる（2回、3回と参加すると役を任せようというイメージを払拭する）
- ・ その世代のリーダーを巻き込む
- ・ 会の目的をはっきりさせる／メリットをしっかりと伝える／どんな人がいて何をしているかを発信する
- ・ ボランティアや選挙にポイントをつける
- ・ 義務に非ず、有志であるという「前提」で参加してもらう
- ・ 言葉づかいに気をつける
- ・ 慣例ばかりでなく、新しい取り組みで興味をひく／参加した楽しさを感じられる会にする
- ・ 世代を超えた交流（子どもから高齢者、地域ぐるみで）を普段からしておく
- ・ 選挙は投票しないと罰金を科す（オーストラリアは3万円）
- ・ 地域、学校、行政の連携を強くする
- ・ 何かの決め事を若者にさせる
- ・ それぞれの地域に合った参加度があるはず。境港市の目指す形は？

今回は、参加者アンケートも実施し、「幅広い年代の意見が聞けて良かった」「前向きな気持ちになれた」という好意的な意見が見られた。一方で、「年配の方との価値観にギャップがある」という意見もあり、各コミュニティの実態をそのままテーブルが表していたのだとも感じた。

(5) 小括

島根大学生・市内の若い世代との交流を経て、多くの意見を聞くことができた。現状として、若い世代は仕事や子育てに忙しく、その時間を割いてまで、参加するメリットがないと思っている人も多く、また、性格的な部分において、年配者が役割を持つことにやりがいを感じることに對し、若い世代は(個人差はあるにせよ)、役割は負いたくない、という考えを持つ人も多いようである。

よって、現状打破するためには、短期的には、それぞれの会の意義や参加することのメリットをしっかりと提示し、場合によっては、新たに即効性のあるメリット(食事を提供する、参加賞を設ける等)を企画する必要がある。また、気軽に参加できるような雰囲気づくりや、それを伝えるためのSNSを活用した情報発信も不可欠であると思われる。長期的には、学校教育における段階から、参加する機会を創出し、自分たちが決めたことで、何かが変わっていくという経験を積ませていくことが必要だと思われる。